



# 仙台市の体験型経済教育プログラム「スチューデントシティ」の活動内容について

公益財団法人七十七ビジネス振興財団

仙台市は、複合ビル「アエル」の8階で「仙台子ども体験プラザ—E l e m (エリム)」を運営しています。この施設では、市内の小学生（高学年）と中学生を対象として、体験型経済教育プログラム「スチューデントシティ」及び「ファイナンスパーク」を実施しています。今回はそのうち小学生を対象とする「スチューデントシティ」を見学させていただき、活動内容についてお伺いしました。

## —「仙台子ども体験プラザ—E l e m (エリム)」の開設について教えてください。

東日本大震災で被災した宮城県、福島県、岩手県の「子どもたちの教育」「健康」「水産業」「起業家支援」の4分野の活動を支援する復興支援プロジェクトとして、中東のカタール国によって「カタルフレンド基金」が設立されました。大震災で悲しい体験をした子どもたちに夢や目標を与え、未来を切り開く力を育むことを大切に、子どもたちが知識や技術を身に付け、様々な体験ができる教育プログラムへの資金援助に対して、仙台市では公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本が提供するプログラムの導入を検討し、この基金から助成を受け、「スチューデントシティ」及び「ファイナンスパーク」を実施することとしました。

このようなプログラムを通して、子どもたちが自分の意思で進路選択や将来設計ができる力を養うことを目的として平成26年8月に開設された施設が「仙台子ども体験プラザ—E l e m (エリム)」です。



「仙台子ども体験プラザ—E l e m (エリム)」

### < E l e m の施設概要 >

- 施設面積：925.254㎡
- 主な施設内容
  - ・スチューデントシティ：11ブース  
1 開催あたりの最大収容人数：130名程度
  - ・ファイナンスパーク：13ブース  
1 開催あたりの最大収容人数：120名

## —教育プログラムの「スチューデントシティ」について教えてください。

「スチューデントシティ」では、ビルのワンフロアに「街」を再現した体験学習施設で、銀行やコンビニ、新聞社などで働く体験を通じ、社会と自分との関わりや経済の仕組み、仕事とは何かを学びます。ここで重要なことは、実際に活動している地域の企業の方々が経済教育活動支援のために「意思決定」「責任」「リーダーシップ」「コミュニケーション力」といった企業が持つノウハウを提供していることです。

「スチューデントシティ」は、仙台市に加え、七十七銀行をはじめとした民間企業10社の協力により成り立っています。各企業は出店ブースにかかる設営費用を拠出し、働くことで得た給料で購入することができるお菓子やお米、文房具などの商品の提供や企業ボランティアの派遣等を行っています。また各ブースに2名、合計22名の保護者・地域ボランティアの方々が学習のサポートをしており、それにより企業・学校・地域が一体となった指導体制を確立することができています。



「スチューデントシティ」の参加企業とブース

## 一体験学習はどのような内容で進行されるのですか。



「体験プラザの企業ブース」

「スチューデントシティ」プログラムは、体験プラザにおける学習6時間に、各小学校での事前学習8時間および事後学習1時間を加え、合計15時間で構成されています。

事前学習では「仕事をする意味」や「仕事選びと会社の仕組み」、「価格やコスト、利益の関係」、「ビジネスプラン作り」などを中心に学習します。体験プラザでの学習では、各企業ボランティアの方は児童を一人の大人として接し、あえて専門用語を使った指導を行いますので、当日戸惑うことがないようにしっかりと事前準備を行うことが重要となります。

いよいよ体験プラザで職業体験のスタートです。子どもたちは、市役所ブースでの住民登録に始まり、各企業でお米や文具などの商品の販売や、警備や運送などのサービスを提供する仕事を体験し、その報酬として銀行口座を通じて給料を受け取り、お菓子などのショッピングを楽しみます。積極的に行動することや意思決定が大切なこと、社会は様々な仕事を通してつながっていることなどを、体験的に学んでいきます。

事後学習では、「スチューデントシティ」で感じたことや分かったことをまとめ、将来の自分はどうかあったらいいのかについて考えます。

## これまでどのくらいの利用実績がありますか。

「スチューデントシティ」は平成26年8月にオープンし、仙台市の公立小学校5年生または6年生の年間指導計画に位置付けて実施しております。各学校の児童数に応じて1校単独または複数校の合同で年間約80回開催しています。今年で3年目を迎えており、これまでに延べ約12,000名の子どもたちに利用されています。プログラムについては企業や保護者・地域ボランティアの方々からの意見を参考に随時見直しを行い、常により良いプログラムを目指して取り組んでいます。また学校側の指導体制も整いつつあり、仙台の学校教育の一環として根付き始めています。

体験した子どもたちからは「仕事を行うことの大変さとともに、目標に向かって努力することの楽しさがわかった」、担当教諭や保護者からは「この体験を通じ子どもたちが自分の将来像を意識しはじめ、何のために日々勉強しているのかを考えるようになり目の輝きが変わった」等、うれしい声を数多くいただいています。

体験プラザではこのプログラムの他に、中学生を対象とする一歩進んだ生活設計のプログラム「ファイナンスパーク」で、家族構成や収入など与えられた条件のもと、1ヶ月の生活費を計画する活動を通して、情報を適切に活用する力や生活設計能力などを育成しています。こちらも証券会社や百貨店、航空会社など計13社

のブースがあります。

#### <ファイナンスパーク参加企業>

- ・ MJQ ウェディング・カタル航空・仙台青葉・泉カルチャーセンター・和風レストランまるまつ・au・ジブラルタ生命保険
- ・ 大和証券グループ本社・東北電力・トヨタカローラ宮城・東日本旅客鉄道・藤崎百貨店・三菱地所・杜の都信用金庫

今後もプログラムの向上を目指し、将来の復興の柱となる人材の育成の場として当施設をご活用いただけるよう、取り組んでまいります。

#### 【子どもたちの感想（抜粋）】

- ・ 今日一日大人として仕事をした感想は、やるべきことだけすればよいのではなく、違う職種でも協力する大切さを一番実感しました。どうすればたくさん売れるかをみんなで考え、目標を言い合ってがんばる中、少し時間が空いたら困っている人のところに助けにいくということが大切だと思いました。自分が困ったら助けてくれる人がいて、とてもうれしかったです。
- ・ ○○新聞社の皆様へ 先日はお忙しい中、たくさんの方を教えていただきありがとうございます。ぼくは営業係でたくさんの方の仕事を任せられました。どうやって、どのようにその仕事をすればよいか分からないときに、ていねいに教えていただきました。新聞が第一ピリオドでは5枚、第2ピリオドでは3枚しか売れなく赤字でした。でも第3ピリオドで39枚も売れました。こんなに売れたのはぼくたちが協力したからだと思います。でもぼくたちだけの力ではなく、みなさんにていねいに教えていただいたからだと思います。本当にありがとうございました。
- ・ ○○銀行のみなさんへ スチューデントシティでは、たいへんありがとうございます。まちがえたときは優しく、ていねいに教えてくださって、○○銀行でのお仕事がとても楽しくなりました。お客さまの対応を特にながりました。声が小さくてもダメで、大きすぎてもダメなので、そこを気を付けて対応しました。教えていただいたことを時々思い出すことがあります。パソコンの入力もお客さまの対応もできるようになりました。どうもありがとうございます。

#### 【保護者の感想（抜粋）】

- ・ 短い時間の中でも子どもたちが自分たちで考え、話し合いながら成長していくのを見ることができ、貴重な体験をさせていただきました。個人差もある中、社会の一員として助けながら自分の仕事をこなしていく姿にとっても感動しました。
- ・ 子どもたちは事前学習をしっかりしていたためか、目的意識をもって活動していました。緊張して始めは堅かったのですが、後半になるとはきはきと活動していて、このような学びのできる子どもたちは幸せだと思います。企業ボランティアの方が子どもたちの気付きを促したり、学びを深めるアプローチをしてくださったので、感謝しています。



「全体学習の様子」



「七十七銀行の企業ブースで働く子どもたち」

#### <最後に>

—教育と経済をつなぐ「スチューデントシティ」には、子どもたちの笑顔があふれていました。

この体験を通じ、宮城県の産業の振興と経済の発展を担うたくさんの人材が生まれることを、期待しています。

#### ○仙台子ども体験プラザ—E I e m（エリム）

〒980-6108 宮城県仙台市青葉区中央一丁目3番1号A E R 8階

TEL.022-302-6058 FAX.022-225-9818